

模擬試験が5教科になった意味

……意識と学習法を変えよう！

模擬試験が5教科になった意味

2年生の秋になって、模擬試験にも理科・地歴公民が登場しました。できればはどうだったでしょうか？ 定期考査とは違って、出題範囲が広いので、前に習ったことは忘れてしまっていた人もいないではないでしょうか。そろそろしっかりとした準備が必要になってきます。本当ならば3分の5倍の負担増なわけですから、家庭学習の時間も3分の5倍に増やせばいいのですが、ほとんどの場合、それは不可能です。ではどうすればいいのでしょうか。

1. 5分の3の時間で、同じこと・それ以上のことができるように、自分を成長させよう。

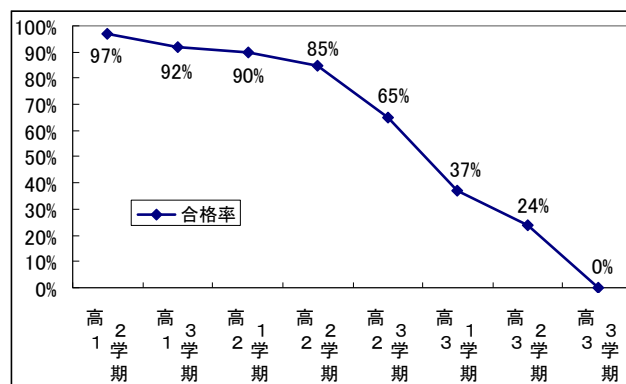
単語力がつけばつくほど、1ページあたりに辞書を引かなければならない単語は減ってきます。5分の3の時間で同じ量が訳せるようになります。また計算力がつけばつくほど、ドリル的な問題ならば、問題集1ページを解くのにかかる時間は5分の3で済みます。さらに、受験勉強を考えると、英語の場合だと、全文を丁寧に訳すよりも、ポイントとなる単語と、文の構造だけ確認して、どンドン次へいったほうが良い場合がでてきますし、数学の場合だと、難問に出会った場合、長時間をかけて悩むよりも、模範解答をちらっと見て、解法だけ確認してから、答えを伏せて解いてみた方が良い場合がでてきます。要は「**対時間効率**」を意識した学習になっていくということです。

2. 今のうちに予復習以外のメニューを入れてみよう。

3分の5倍のことをやらなければならないのに、どうして予復習以外の時間がとれるのかと思うかもしれませんが、今、3年生はどのような勉強をしているかという点、ほぼ受験勉強100で予復習0です。3年生の部活動引退ぐらいの時期では受験勉強50予復習50くらいですから、先輩達も少しずつ、受験勉強を組み込んでいったのです。以前にも載せましたが、右のグラフを見てみるとやはり高2の3学期までに大学入試に向けて何らかのスタートを切らないと、高3から始めたのでは、合格率が大きく下がってしまいます。なぜ下がるかというと、今日から受験勉強をしよう

と決意して始めても、ペースが分からなかったり、的を射ていないことをやっていたりと、必ず試行錯誤が付きまとい、実際、本格始動するのは2ヶ月後とかになるからです。赤本を解くだけが受験勉強ではありません。「模試の解き直しをする」、「自分は英単語が弱いから1年生のときに使った単語集を1日50個ずつ覚え直す」、「自分は数学ⅡBが苦手になってきているので、もう一度チャートの基本例題を1日5題ずつやる」などと決意したら、それはもう立派な受験勉強です。さらにそれが5分の3の時間でできるようになれば、無理なく受験勉強の時間は増やせます。

大学入試に向けてスタートした時期と合格率



3. 授業で使用している問題集を信じて取り組む。

多くの問題集に手を出す人がいますが、効率的ではありません。1冊を完璧に仕上げることが大切です。授業で使っている問題集は信頼できるものです。

4. 長期的な計画をたてる。

今までに習った範囲をどのように復習すればいいのか、一度長期的な計画を立ててみましょう。そしてその計画を実行してみると、反省点や軌道修正すべき点などが見つかりやすから、それを直していくことで、長続きする勉強法につながっていきます。

3年生の模擬面接を終えて

10月から11月に、推薦入試で面接のある3年生を対象に、模擬面接を行いました。模擬面接を終えてわかったことは、「**付け焼き刃ではだめ**」ということです。目立った問題点と、2年生が今から心がけなければならないことを挙げておきますので、参考にしてください。

問題点① 志望理由がきちんと話せない。

- 自分の勉強したい分野は何か、大学で特に深く学びたい内容は何か、なぜその学問に関心を持つようになったのか、大学卒業後はどういうことをしたいのかなどについてきちんと言語化しておきましょう。
- 各大学の学校案内パンフレットを読んだり、先輩に話を聞いたりして、志望する学校についてよく調べておきましょう。オープンキャンパスには必ず参加しておきましょう。

問題点② 基礎的な教養や社会常識の不足が目立つ。

- 全ての教科の授業で習う内容が、基礎的な教養になるのです。**理解せずに板書を写すだけ、消化せずに暗記するだけ、という学習方法では教養として身につくはずがありません。家庭基礎や保健も含めて、学習した内容を本当に理解し、消化しているか、確かめてみてください。
- 面接では時事問題についてよく質問されます。**1年以内に起こった有名な事件や社会的に問題となったことは当然知っておかなければなりません。これは社会常識といっても過言ではありません。今日からでもすぐ、テレビの**ニュース番組**を視聴したり、**新聞**を毎日読むなどして、社会の問題に注目するようにしましょう。特に自分の志望する分野の内容のドキュメンタリー番組、記事などは、自分の志望動機をさらに強固なものにしてくれます。

問題点③ 敬語できちんと話せない。

- 「あのう、わたしはあ」「めっちゃ、興味あって」など、面接で緊張すると、**普段の話し言葉がそのまま出てしまいます。**自分のことを「私」と言わずに「〇〇はね、」と自分の名前と言っている人や「自分は」と言っている人は、「私」という言葉を口にするだけでも余分な緊張と注意が必要になってしまいます。普段から話し言葉に気をつけましょう。
- 難しい敬語は使わなくてもかまいませんが、**最低「です、ます」は自然に使えるようにしておいてください。**普段から先生や先輩と話す時には「です」「ます」できちんと話すようにしましょう。

※ 裏面に進路希望調査第2回の質問欄よりQ&Aを載せた。

進路希望調査の質問欄より

進路希望調査の質問欄より代表的なものに答えてみました。ただし重複するものをまとめたり、一部改変したりしています。また、ここに載せきれなかったものも多数あります。個別に進路指導部まで相談に来てください。

Q：大学をどう選べばいいですか？

A： 1年生に多かったのが、進路希望について「まだ何も決まっていない」「どう決めればいいのかわからない」という声でした。高校に入学してからまだ半年ほどですから、ある意味で当然なのかも知れません。しかし、何もしないままではいけません。

調査をみるかぎり、ほぼすべての人が進学を希望しています。悩んでいる人も、「とりあえず大学へ行こう」と思っているようです。進学したい大学を決められないのなら、一番オススメなのは、社会的に評価の高い大学を選ぶことです。東大や京大などの最難関大学に進学しておけば、将来的に「これをやりたい」と思ったときに、実現できる可能性が高くなります。特に文系の場合は、「自分探し」をするために進学して、大学で将来について改めて考える人もいます。

「東大や京大はとて…」と思った人は、自分はどの大学になら合格できると考えているのでしょうか？ また、自分の学力と大学の難易度について、きちんと知っていますか？ 気を付けて欲しいのは、「(そんなに勉強を頑張れない/特に勉強したくないから) 行きたい大学が決まらない」と言っていますか？ ということです。

本当に「決まらない/決められない」ならば、最難関大学への進学を目標にしましょう。また、世の中には若い力を必要としている分野や産業はたくさんありますから、「世の中の役に立つ」ことを調べてその分野に進めば、間違いなく未来を切り拓いていくことができます。

大学はすでに全入時代に突入していますし、ましてや洛北高校生であれば、それほど受験勉強をしなくても、大学の選択肢はいくつもあることでしょう。しかし、「行ける大学のなかから進学先を選ぶ」と、成長の機会を自ら放棄していることとなります。受験にかぎらず、高校生は「学習方法を学ぶ」非常に大切な時期なので、この時期に努力を怠ると、その影響は生涯にわたって続くこととなります。

まずは、「大学を知る」「社会に必要とされている学問や仕事を調べる」という努力を始めましょう。調べ方がわからない人や、具体的なアドバイスが欲しい人は、とりえず進路指導部に足を運んでみてください。悩んだときに「自分から行動すること、生きていくうえで、とても大切なことです。

Q：進路指導の先生に成績の相談をしてもいいですか？

A： もちろんです。進路指導部では、各種のデータや資料をもとに皆さんの進路の相談に乗るほか、面談希望があれば面談をしますし、学習方法などの相談も大歓迎です。自分一人で悩むよりも、相談すれば解決することの方が多いため、担任の先生はもちろん、「相談できる人・場所」を一つでも増やしておくために、ぜひ声をかけてみてください。

Q：学校推薦型・総合型選抜について知りたいです。

A： 学校推薦型選抜や総合型選抜についての質問もいくつかありました。近年、こうした入試の割合が増えていることは知っている人も多いかと思います。国公立・私立を問わず、ほとんどすべての大学が、推薦・総合型の入試を設定しています。ただし、いわゆる指定校推薦は私立大学にしかありません(京都府立大学・京都教育大学など、京都府内の高校出身者に限定した入試制度を持つ大学はあります)。

総合型は成績基準が設定されていない場合が多いですが、推薦の場合は成績基準を満たさないと出願できません。また、推薦は校内人数制限枠が設けられている場合に校内選考を実施しますので、いずれにせよ好成績を維持しておきましょう。推薦基準や人数制限枠など、くわしい情報が知りたい場合は、進路指導部まで来てください。

ちなみに、洛北高校での国公立推薦の合格率は例年40%程度ですが、合格率を大きく左右するのが志望理由の明確さです。また、1・2年生の頃から、サタデープロジェクトなどに積極的に参加している人は、アピールできるポイントがたくさんあるため、合格しやすいと言えます。

Q：受験勉強のやり方について悩んでいる。

A： 日々の授業の学習方法や、部活動との両立、また、受験勉強の始め方などに悩んでいる人もいます。まず、毎日の学習については、とにかく授業に集中すること、予復習を欠かさないこと、この二つをやり切ってください。部活動との両立に悩む人も多いのですが、先輩たちの体験談からは、スキマ時間を有効に活用していることがわかります。また、部活動で疲れているときに、「ちょっと休憩してから…」と思っても、ほぼ100%寝てしまいますので、「休憩はやることをやってから」が鉄則です。「寝るときは寝る」「やるときはやる」というメリハリを大切にしましょう。

学習塾へ通うかどうか迷っている人もいますが、学校の勉強がうまくいっていないときに塾へ通うようになると、ほとんどの人が課題の量に溺れて成績を下降させてしまいます。まずはしっかりと予習・復習し、わからないところを質問するなど、基礎基本を徹底して、学校をフル活用しましょう。

受験勉強というと何か特別な勉強があるように思いますが、実際には普段の授業や小テストの延長が受験であり、授業で習ったことをきちんと活用できるようになれば、どの大学にも合格できます。大切なのは、小テストをクリアすればすぐ忘れてしまうような「その場しのぎ」でなく、「できるようになろう」「やってみよう」と考えて授業を受け、課題を解き、小テストの勉強をすることです。それが受験勉強です。

Q：自分の学力で志望校に行けるかが不安です。

A： 1・2年生のうち、志望校との距離が掴めず、不安に思うことがあるかも知れません。一つには、校内で受験するベネッセの模擬試験の成績を確認してみましょう。自分の学習到達ゾーン(GTZ)と、目標とする大学のGTZの目安がわかれば、参考になるでしょう。各大学の合格目標ゾーンについては、教室に掲示してあるはずですが(無ければ進路指導部まで来てください)。2年生からは模試のたびに志望校判定が出ますので、それも目安になります。しかし、3年生になるまでは志望校への距離を意識するより、とにかく基礎を徹底的に固めて、しっかりした学力の土台づくりをするのが何より大切だと言えるでしょう。